趣味と毎日サタデイ（定年後あれこれ）

定年後、お礼奉公を一年して退職した。待ちに待った自由人になったわけだ。時折先輩や知人に会うと決まって聞かれる。

「第二の人生を楽しんでいますか？」

第二の人生とは、定年退職後の事を一般にこう呼ぶのだろう。定年にならないで退職した人に、この言葉は使わない。私は、第二の人生という言葉は嫌いだ。なぜなら人生は一度きりのもので、生まれてから死ぬまで続く一本の線なのだ。

時々こんなことをいう人がいる。

「自分は趣味がないので、どうやって第二の人生を楽しんだら良いか分からないのです」

趣味というものは、自分が楽しいことすることなのだ。生活のために働くことは、一部の特殊な人以外、そんなに楽しいものではない。ただ全部が苦しいものでもない。私の場合、先ず何か遊ぶことを考える。それを実行する時間を作るために必死に仕事をする。すると苦しみが軽減される。こんな流れだ。

酒が好き、パチンコが好き、博打が好き、みんな趣味なのだ。数ある好きなことで自分を困窮させるほど入れ込むと、趣味の域を脱して仕事になっている。これじゃだめだ。

真実は、性格が飽きっぽい人ほど趣味を楽しめる。どんな趣味も何かを極めようとすれば仕事になってしまう。楽しむ遊びが趣味なのだ。私の遊びは、いつも一時魂をつめてやるがすぐ飽きる。するとまた別の遊びに魂をつめてまたすぐ飽きる。こんなことを繰り返していると、また依然やったことに再び魂を詰めて遊んでいる。言わばサイクル趣味だ。

夢中で作文を書く。すぐ飽きて真空管でラジオを作ってみたりする。すぐ飽きて海釣りに出かける。今度はエアガンで射撃をする。すぐ飽きてオートバイでツーリング三昧。また飽きて海でダイビングが続く。すぐ飽きて今度はトランジスター回路を作る。すぐ飽きてカラオケ三昧。すぐ飽きてギターを弾いてみる。また飽きて漫画を読みふけっている。これにもすぐ飽きて各駅停車の一人旅。すぐ飽きて写真を焼いてパネルづくり。要はすべてが中途半端でいい加減なのだ。そんなサイクルの中に、生活の生業としていた、橋を架けたり道路を作る土木の仕事は一切ない。それらは趣味ではないからだ。

「そろそろ何か仕事を始めるんでしょう？」

「今のところ全くその気はないんです」

「いいですねー、毎日サンデイですか？」

そのたびに、

「私の場合は毎日サタデイですよ」

「えっ！サタデイですか？」

するとこれも決まって、その説明をしなければならない。

そもそも日曜日が楽しいのは午前中くらいのものだ。次の月曜日には朝からの仕事が待っている。夕方になって定番のテレビ番組（サザエさん）が始まるころには憂鬱になり始める。気が早い人は(笑点）が始まるころに、この症状が出るらしい。それに比べ土曜日はどうだ。夜になっても心ウキウキワクワク、明日は休みだ。最高の日なのだ。

子供のころ土曜日の学校は午前中で終わりだった。昼ご飯は家に帰ってから食べるものだった。四時間目が終わった後の解放感は今でも忘れられない。昼飯なんてそっちのけで道草をして遊んでいた。まっすぐ家に帰ってご飯を食べても、すでに遊びの約束はできている。大急ぎでみんなが約束の場所に集まってくる。私は土曜日が待ちどうしくて、金曜日には心が弾んでいた。せっかちな性格がそうさせたのだろう。

今の境遇は、明日になっても、その次の日が来ても仕事は始まらない。毎日が土曜日のウキウキなのだ。最近、長いゴールデンウイークが終わったのだが、会社は始まらない。全く信じられないことだ。普通の人は幼稚園や小学校に入った時から、朝の時間に縛られて五十五年以上厄介な時代が続く。今やその呪縛から解放された日々を送っている。夜中に目が覚めて眠れなくなったとき、本を読もうが漫画も読もうが一向にかまわない。朝、起きなくても何の問題も起きないのだ。

しかしよく考えてみると、土曜日が楽しいのは、一週間待ったということが楽しみを大きくしていたような気もする。待たなくても来る土曜日は楽しみが七分の一なのだろうか。